

これからの学びに対応した学科・課程のあり方

本委員会でこれまで議論してきた教育内容や教育環境づくりを実施していくうえでは、学科や課程という構造の中で、それらをどのように実現していくのかについても検討する必要があります。

このため、これからの学びに対応していくための本県の学科・課程のあり方について議論することとします。

課程

全日制：高等学校の通常の課程とされており、1日に6時間から8時間程度の授業を行う。修業年限は3年と定められている。

定時制：夜間その他特別の時間又は時期において授業を行う課程。修業年限は通常は4年であるが、午前・午後・夜間のそれぞれの時間帯で授業を行う課程を組み合わせた多部制を置いた学校では、3年での卒業も可能となっている。

通信制：通信による教育を行う課程。郵送方式等での添削指導と年20～30回程度の面接指導、試験により学習指導を行う。3年で卒業可能だが、自分のペースで学び、4年以上での卒業も可能となっている。〔参考9〕

学科

一定の教育目標を達成するために、各教科・科目を一つのまとまった教育内容を持つよう系統化を図ったもので、教育課程の編成上、また、生徒が履修するうえでのまとまりとなるものです。高等学校の学科は大きく次の3つに区分され、卒業に必要な単位数は全学科共通で74単位以上（専門学科では、そのうち専門教科・科目から25単位以上）となっています。

<普通科>

普通教育を主とする学科で、生徒は主に、国語・地理歴史・公民・数学・理科・外国語・保健体育・家庭・芸術・情報及び総合的な探究（学習）の時間を履修する。コースや類型を設置したり、学校によっては職業系の専門教科・科目を設置したりして、生徒の能力・適性・進路希望等に応じた教育を行っている。

<専門学科>

専門教育を主とする学科で、農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉、理数、体育、音楽、美術、外国語、国際関係、その他専門教育を施す学科として適当な規模及び内容があると認められる学科に大別される。

<総合学科>

普通教育及び専門教育の選択履修を旨として総合的に施す学科として、平成6年度から導入。単位制による教育課程編成を原則としており、全ての生徒が入学年次に「産業社会と人間」を履修するとともに、それぞれの興味・関心、進路に応じた系列を選択する。

コース、類型、系列について

コース

学科の中に複数の教育課程を設置し、入学する段階で、それぞれの募集定員を定めるものをいう。「国際科学」「スポーツ科学」「文化教養（吹奏楽）」等。

類型

学科の中に複数の教育課程を設置し、入学後、生徒が希望等に応じて選択する。一般的には「コース」と呼ぶ場合があるが、入学する段階で募集定員として定められているものではないため、「コース」とは区別する。

系列

生徒にある程度まとまりのある学習を可能にするとともに、生徒自身の興味・関心や能力・適性、卒業後の進路希望に合わせて科目を選択する目安になるように、相互に関連の深い、いくつかの科目をまとめたグループ(科目群)

1. 本県の学科・課程〔参考1〕における現状と課題認識

役割	学びの内容・方法	生徒の状況	本県の特徴	課題
----	----------	-------	-------	----

(1) 全日制

(ア) 普通科

役割

普通教育に関する教科・科目を中心として学習し、一般的に必要とされる教養を幅広く身に付け高めることを目標としています。

学びの内容・方法、生徒の状況

< 大学等高等教育機関への進学希望者が多い普通科高等学校 >

進学希望の実現に向けた指導の充実に加え、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）校を中心に、発展的な学習内容や探究的な学習活動について、より効果的な指導方法にかかる研究を進めています。また、大学進学希望者が多い高等学校の校長と進路指導主事で組織する「三重県進学指導ネットワーク会議」を中心に、学校間の連携を進めて指導のあり方のさらなる改善を図るとともに、生徒が学校を越えて、ともに学びながら切磋琢磨する機会を設けるなどして、高い志を持って進学を志望する生徒への支援を進めています。さらに、生徒が将来の社会的・職業的に自立した生き方を十分意識しながら進路実現を図っていただけるよう、大学等高等教育機関や外部の教育機関との連携を拡充し、大学等への進学のその先にある自己実現を視野に入れた目的意識を持てるよう取り組んでいます。

< 生徒の進路先が多様な普通科高等学校 >

進学希望者と就職希望者のどちらも在籍する高等学校では、進学と就職の両方に対応した教育課程を編成し、より効果的な類型の設置や授業における習熟度別学習の推進を図るとともに、就業体験活動やボランティア活動の積極的な導入等により、生徒が自分自身の適性や役割を理解することができるよう、一人ひとりの目標達成に向けた支援を行っています。

また、大学進学希望者を対象とした「進学対策 HYPER 講座」への生徒参加など、「三重県進学指導ネットワーク会議」と連携した取組も行っています。

<就職希望者が多い普通科高等学校>

関係機関と連携して、職業に関する体験的な学習の機会を設けるとともに、就職に向けた相談体制の充実を図り、就職支援や早期離職防止策を推進しています。

また、職業系の専門科目の拡充や学校設定科目の開設による勤労観・職業観の育成とともに、授業時間の弾力的運用や評価方法の改善等を進めながら、義務教育段階の学習内容も含めた基礎学力の確実な定着を図ることにより、生徒の意欲を引き出し、達成感が実感できるよう取り組んでいます。

本県の特徴

本県では、全日制 32 校に普通科を設置しており、その中には、理数系科目を多く開設して、医療看護・生物資源系、工学系等生徒個々の進路実現に対応できる数理情報コース、管楽器・打楽器等を専門的に学べる全国的にも珍しい文化教養コース、体育や体験活動等とおして運動の実践と理論との一体化を図るとともに自然に親しむことができる資質や能力を身につけるスポーツ科学コース等、特色あるコースを設置[参考3]したり、将来の国際的な科学技術系人材を育成することを目指し、理数系教育カリキュラムと指導方法の研究・開発、探究活動を核とした科学教育システムの構築、海外高校生等との交流等を行う「SSH 事業」などの取組を行っている高校もあります。

課題

特に、大学等への進学希望者が多い普通科高校においては、文系又は理系を選択することで大学受験に必要な科目について、十分に学習しなくなる傾向があります。

また、普通科における教育課程は画一的になりがちであることから、生徒一人ひとりの進路希望に応じた教育を実施することは容易ではなく、多様な人材の育成という点で課題があります。

高校進学率が 98.8%に達した中で、目的意識が薄いまま普通科に進学する生徒が少なくなることから、特色ある教育課程編成や学校行事の工夫等による魅力化・特色化を図るとともに、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成に向けたキャリア教育の充実を図る必要があります。

(イ) 専門学科

県立高等学校の専門学科は、職業に関する学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉）と、職業に関する学科以外の学科（理数科、体育科、英語コミュニケーション科、国際教養科、国際科学科、国際文理科、応用デザイン科）があります。本県の『県立高等学校活性化計画』では、前者を「職業系専門学科」、後者を「普通科系専門学科」と分類しており、ここでは、職業系専門学科における現状と課題認識を示すこととします。

<職業系専門学科>

職業系専門学科（農業、工業、商業、水産、家庭、看護、情報、福祉）では、職業教育等とおして生徒の自己実現を図るとともに、将来のスペシャリストを育成できるよう取り組んでいます。

農業に関する学科

役割

農業教育をとおして、農業の多様化やグローバル化の進展に対応し、課題を解決する力、創造する力等を備えた人間性豊かな職業人を育成しています。

学びの内容・方法

植物の栽培、動物の飼育、食品加工などの農業技術と経営、食品に関する学習を行う「食料生産分野」と、森林、土木、造園などの地域環境に関する学習を行う「環境分野」、動物、植物の生物工学に関する学習をおこなう「バイオテクノロジー分野」、生物活用などのヒューマンサービスに関する学習を行う「生物活用分野」があります。本県では、「食料生産分野」と「環境分野」に大別しています。

(食料生産分野の主な類型)

- ・ 食料生産類型.....米、野菜、果樹、花、草花の栽培、家畜の飼育、植物と動物のバイオテクノロジーの専門的な知識・技術を習得
- ・ 食品科学類型.....安全・安心な食品製造、商品開発などの専門的な知識と技術を習得

(環境分野の主な類型)

- ・ 造園土木類型.....造園（設計、施工、管理）、農業土木（測量、設計）の専門的な知識・技術を習得
- ・ 環境保全類型.....環境緑化、森林経営の専門的な知識・技術を習得

生徒の状況

植物の栽培や動物の飼育に積極的に取り組む生徒が多く、「環境分野」では測量士等の国家資格に挑戦する生徒もいます。卒業後は、地元への就職（食料生産、製造、販売等）を希望する者が多く、地域の産業界の担い手として活躍しています。進学（四大、短大、専門学校等）希望者も少なくありません。

本県の特徴

平成 30 年度に、全ての県立農業高校（四日市農芸、久居農林、相可、明野、伊賀白鳳）で GAP の認証を取得しました。認証に向けた取組を進める中で、地域の農業の課題を発見し解決方法を考える活動に取り組んでいます。

事業所や地域自治体と連携した商品開発、大学や研究機関との飼料や廃棄物に関する利用の共同研究、小・中学生や地域住民との農業に関する交流活動の実施など、実践的な学びを実施しています。

毒物劇物取扱責任者、危険物取扱者、食品衛生責任者、ボイラー取扱者、食生活アドバイザー、日本農業技術検定、土木施工管理技術検定、造園技能検定、測量士・測量士補、園芸装飾技能士の資格取得にも取り組んでいます。

課題

地域自治体や企業と連携した取組は進められていますが、ロボット・ICT・AI・IoT等の先端技術を活用した超省力化や高品質化に関する体系的な学習の推進について、検討する必要があります。

工業に関する学科

役割

ものづくり教育をとおして、高い技術と技能を身につけた人材を育成するとともに、グローバルで複合的な視点を持った地域産業・社会を担う人間性豊かな職業人を育成します。

専攻科においては、先進的な製品を生産するための幅広い技術・技能を有し、中堅技術者としての指導力を備え、生産現場において牽引役となる優秀な技術者を育成します。本県では、四日市工業高等学校に「ものづくり創造専攻科（機械コース、電気コース）」を高校卒業後2年の修業年限で設置しています。

学びの内容・方法

1年次に履修する科目「工業技術基礎」において、ものづくりをとおして工業の諸課題を適切に解決するのに必要な基礎的な知識・技術を学習するとともに、科目「実習」において、工業の各分野に関する技術を実際の作業に即した実践的・体験的な学習の中で学びます。3年次の科目「課題研究」では、工業に関する課題を発見し、工業に携わる者として独創的に解決策を探究し、科学的な根拠に基づき創造的に解決する学習を行います。

生徒の状況

高校生ものづくりコンテストや建築に係るコンペ等のものづくり活動、技能士や電気主任技術者等の資格取得、部活動のそれぞれに対して、生徒は積極的に取り組んでいます。卒業後の進路は、就職が約80%（うち県内企業への就職約80%）、進学（四大、短大、専門学校、専攻科等）が約20%となっており、県内製造業の担い手として多くの卒業生が活躍しています。

専攻科の生徒は、高校卒業後さらに専門性を高めたいという意欲を持って入学し、卒業後は、就職する生徒が約90%（うち、専攻科のパートナーズに登録している企業へ就職する生徒が約80%）となっており、生産現場におけるリーダー候補（高等専門学校卒と同等扱い）として採用されています。

本県の特徴

企業の技術者から専門的な技術を学ぶ機会を積極的に設けたり、インターンシップやデュアルシステムなどで企業に出向いて実際の現場の技術を学ぶ機会を設けたりするなど、企業や関係団体と連携した学習に取り組んでいます。

ものづくりコンテスト（自動車整備部門）やロボット競技、建築コンペなどの全国的な大会での活躍や、資格取得についても電験三種で全国1位になるなど、全国的な活躍をする生徒を育成している学校があります。

また、県内の工業学科が協力して工業学科の魅力を発信する独自のイベント（工業高校生フェア）を、年1回実施しています。

課題

工業学科以外の学校間（工業、商業、農業等）や学校内の小学科間連携（機械科、電気科、建築科、工業化学科等）等により、人の暮らしに役立つものづくり学習の取組を進める必要があります。

また、設備の老朽化が進み、学校で扱っている機器と実際の現場との乖離が起きているこ

とから、最先端の設備に触れられる環境や体制を整備する必要があります。

不景気であっても、高い就職内定率が魅力でとっていますが、学科によっては入学者定員を満たせないことがあります。Society5.0に対応した人材育成に取り組むとともに、工業科の学びの魅力を広める必要があります。

商業に関する学科

役割

商業教育をとおして、ビジネスに関する基礎的な知識・技術の定着を図り、ビジネスの諸活動を主体的、合理的に行い、かつ倫理観を備えた人間性豊かな職業人を育成します。

学びの内容・方法

商業学科では、マーケティング分野、ビジネス経済分野、会計分野、ビジネス情報分野の4分野に関する幅広い学習を行うため、1年次に基本的な学習を行ったうえで、2年次から類型に分かれて専門的な学習を行う高校が多くあります。

(商業学科の主な類型)

- ・ 会計・経理類型.....簿記会計(株式会社会計、財務諸表の作成、連結会計、原価計算)の専門的な知識・技術を習得
- ・ マーケティング類型...マーケティングや商品開発、広告販売促進に関する知識と技術を習得
- ・ 情報システム類型.....システム開発やアプリ開発、プログラミング、データベース、ネットワークなどの専門的な知識と技術を習得

生徒の状況

資格取得や部活動に積極的に取り組む生徒が多く、応用情報技術者試験などの情報国家試験や、日商簿記検定2級、実用英語検定2級などの高度資格に挑戦しています。

卒業後の進路は、進学(四大、短大、専門学校、看護等)と就職(事務、製造、販売等)を希望する生徒が約半々で、地元へ就職する生徒も多く、地域の産業界の担い手として活躍しています。

本県の特徴

事業所と連携した商品開発やセレクション商品(菓子詰め合わせ)の企画、商品パッケージの開発、高校の取組紹介や開発商品の販売を行うための地元の祭り等への出店、自治体や事業所(観光等)と連携した地域開発(四日市市バスターミナル開発)、地域の活性化につながるビジネスプランの立案、小学生や地域の高齢者向けパソコン教室や税に関する学習を行うための税務署と連携した租税教室の実施、情報系企業と連携したクラウドを活用した学び、オープンデータを活用した観光や防災等に関するアプリ開発など、自治体や地元事業所と連携した実践的な学びを実施しています。

課題

勤労観や職業観を育むインターンシップ実施率は以前より増加しているものの、活動の中心が体験にとどまっている場合もみられることから、年次進行によって学びの内容を深めるなどの体系的なプログラムを検討する必要があります。

水産に関する学科

役割

水産教育をとおして、地域や社会のニーズに応じた海技士（航海士や機関士などの船員）や漁業従事者等、水産の各分野で活躍する人間性豊かな職業人を育成します。

専攻科においては、3級海技士の資格を取得し、漁船や海運業の船長、航海士、機関士として活躍するプロフェッショナルを育成します。

学びの内容、方法

水産学科については、海洋漁業分野、海洋工学分野、資源増殖分野、水産食品分野があり、他に情報通信やマリンスポーツの学習も行っています。

（海洋漁業分野の類型）

- ・ 海洋類型.....海技士（航海）免許に関する船舶の運航、海洋気象、漁業、水産生物の専門的な知識・技術を習得

（海洋工学分野の類型）

- ・ 機関類型.....海技士（機関）免許に関する船舶機関の整備、工学などの専門的な知識と技術を習得

（資源増殖分野の類型）

- ・ アクアデザイン類型...魚類の採集、繁殖、観賞魚の飼育システムと管理、真珠の育成とアクセサリー加工の専門的な知識・技術を習得

（水産食品分野の類型）

- ・ アクアフード類型.....干物、缶詰、瓶詰、練り製品、燻製など水産加工品の原材料や副原料についての知識・技術を習得

（専攻科）

3級海技士の取得をめざし、1年3か月間の乗船実習を行います。

- ・ 漁業専攻科...船長や航海士（3級海技士（航海））として活躍できる知識・技術を習得
 - ・ 機関専攻科...船舶機関士（3級海技士（機関））として活躍できる知識・技術を習得
- 生徒の状況

魚類の飼育管理に積極的に取り組む生徒や、海技士取得や養殖、食品加工をめざしたり、ダイビングや小型船舶操縦士、危険物等の資格に挑戦したりする生徒もいます。

卒業後の進路は、就職者のうち3～4割ほどが水産関係、残りは製造業やサービス業で、進学者のうち6割ほどは専攻科や水産関係の大学等に進みます。就職者は県内希望者が多く、地域の産業界の担い手として活躍しています。

専攻科には、水産高校の海洋・機関科（他県同学科を含む）で学んだ生徒のうち、さらに専門的な3級海技士をめざす生徒が進学します。

本県の特徴

水産高校は、国際航海を行う大型実習船「しろちどり」と、小型実習船「はまゆう」を有するとともに、漁業や船舶機関、食品加工、養殖、マリンスポーツなど本県の海洋産業・水産業の特徴をふまえた学習内容を取り入れています。水産特産物を研究したり、地域自治体

と新しい商品開発をしたりすることで、生徒が地域と積極的に関わる機会を創出するとともに、地域の活性化に水産業を活用することにもつながっています。

また、大学や研究機関との養殖や廃棄物に関する利用の共同研究、小・中学生や地域住民へタッチングプールや移動水族館などの交流活動の実施など、実践的な学びを実施しています。また、海技士（航海、機関）、小型船舶操縦士、潜水土、会場特殊無線技士、ダイビング第二種電気工事士、危険物取扱者の資格取得に取り組む生徒もいます。

課題

地域自治体や企業と連携した取組は進められていますが、将来水産業で活躍するための勤労観や職業観を育む職業体験などの職業人との交流の拡充や、水中ロボット等の先端技術を活用した省力化に関する体系的な学習の推進について検討する必要があります。また、外国籍船員の増加などの多様化に対応するため、乗船経験や実用的な英語学習がより一層必要です。

家庭に関する学科

役割

家庭科教育をとおして、生活産業に関する知識・技術の定着を図り、生活産業の多様化やグローバル化の進展に対応し、地域や社会の生活の質の向上を担う人間性豊かな職業人を育成します。

学びの内容・方法

- ・ 食物系の類型.....食物に関する知識や技術を基礎から学び、豊かな食生活を創造する力を育成するとともに、食物調理技術検定等の資格取得をめざす。
- ・ 製菓系の類型.....製菓・製パンに関する基礎的な知識・技術を学び、外部講師による授業も取り入れながら、より実践的な技術・態度を育てるとともに、製菓衛生師の国家試験の取得をめざす。
- ・ 服飾系の類型.....豊かな感性や創造力を生かして、デザインから製作まで自分の力で作品作りに取り組むとともに、被服製作技術検定等の資格取得をめざす。
- ・ 福祉系の類型.....外部講師による専門的な授業や、高齢者福祉施設等の介護実習をとおして、将来、福祉の分野で必要となるコミュニケーション力や対人援助に必要な力を育成する。
- ・ 保育系の類型.....児童文化財の製作や発表等の造形表現学習や、読み聞かせなどの言語表現学習、レクリエーション等の実技学習をとおして、幼児教育に必要な知識・技術の習得をめざす。
- ・ デザイン系の類型...豊かな衣生活を創造するための実践的学習をとおして、衣生活に関する基礎的・専門的知識や、デザイン、コーディネートなどの基本的技術の習得をめざす。

生徒の状況

生活産業に興味関心があり、在学中にその基礎的・専門的な知識や技術を習得するとともに

に、より高度な技術や感性を磨くために技術検定や各種コンクールに挑戦しています。また、地域での活動により、さまざまな世代の方とふれあうことで、人を思いやることの大切さやコミュニケーション力を養い、培った力を生かして生活産業分野への就職や進学をめざしています。

本県の特徴

家庭に関する学科を、北勢地域・中勢地域・南勢地域にそれぞれ2校ずつ配置して、各地域のニーズにえています。特に、相可高校は、県内唯一の調理師養成校として、「まごの店」をはじめ、全国的にも注目される学びを展開しています。

課題

学校により、生活産業分野への就職・進学率が低いことから、家庭学科の学びとキャリアを結びつけるような取組や意識付けが必要です。

看護に関する学科

役割

看護教育をとおして、医療に関する確かな知識・技術の定着を図り、多職種と連携・協働し、高い実践力と看護倫理を備えた人間性豊かな職業人を育成します。

学びの内容・方法

衛生看護科3年、衛生看護専攻科2年の5年一貫教育により、看護師への最短コースとなっています。

生徒の状況

県内の看護学科は、桑名高校の衛生看護科しか配置していないため、看護師をめざす生徒は、北勢、中勢、伊賀、南勢の各地域から通学しています。

本県の特徴

看護の専門科目においては、医師・薬剤師・臨床検査技師等外部の専門講師による授業が行われています。また、1年次には保育所実習、2年次からは病院実習等、福祉医療の最前線で学ぶ「臨地実習」を実施し、現場での多様な体験を積みながら専門的な学習を進めています。さらに、過去10年間における看護師国家試験の合格率は100%に近い数値を維持しており、卒業生は県内外の病院で活躍しています。

課題

近年の医療技術の急速な発展に対応するための専門的な知識・技術の習得や、医療現場の多様化に対応するための外国語の習得が、より一層必要となっています。

情報に関する学科

役割

情報教育をとおして、情報の各分野に関する基礎的・基本的な知識・技術の習得を図り、情報社会の諸課題を主体的、合理的に解決し、かつ倫理観を備えた人間性豊かな職業人を育成します。

学びの内容・方法

情報科においては、情報技術、情報社会、情報産業等、情報に関する幅広い分野の学習を行うため、1年次に基礎的な学習をしたうえで、2年次から3つの系列（ITシステム系列、メディアデザイン系列、情報ビジネス系列）に分かれて、専門的な学習を行います。

- ・ ITシステム系列.....プログラミングやネットワークの専門的な知識・技術を習得
- ・ メディアデザイン系列...Web デザインや設計図の作図（CAD）などのデザイン技術を習得
- ・ 情報ビジネス系列.....ビジネス社会でも活用できるソフトウェア活用の知識・技術を習得

生徒の状況

県内唯一の情報学科である亀山高校のシステムメディア科の生徒の中には、コンピュータへの高い興味・関心から情報系の国家資格にも挑戦する生徒がいます。卒業後の進路先については、4年制大学22%、短期大学4%、専門学校27%、就職等47%となっています。

本県の特徴

情報学科には、将来、県内の情報関連企業等で活躍する人材を育成することが求められています。そのため、亀山高校のシステムメディア科では、情報関連企業等で働いている方を招へいして情報モラル等に関する講演会を実施したり、情報セキュリティに関して三重県警サイバー犯罪対策課と連携して課題解決型の情報セキュリティ授業を行ったりするなど、実践的な学びを実施しています。

また、亀山市役所に対して地方創生に向けた政策提言を行ったり、亀山商工会議所と連携して公式インスタアカウントを活用した商店街活性化に取り組んだり、亀山東小学校児童へのプログラミング出前講座を行ったりするなど、地域に根差した活動も実施しています。

課題

地域等と連携した取組を進めているものの、勤労観・職業観を育むインターンシップ実施率が低いことから、今後はより積極的に進めていく必要があります。また、情報のグローバル化に対応したIT人材を育成するためには、情報システム等の構築に係る知識・技術に加え、語学力を高めることも必要であることから、オンライン英会話等を推進する仕組みづくりも必要です。

福祉に関する学科

役割

福祉教育をとおして、福祉に関する基礎的な知識・技術の定着を図り、福祉ニーズの高度化と多様化に対応するとともに、人間の尊厳に基づく地域福祉の推進と持続可能な福祉社会の発展を担う人間性豊かな職業人を育成します。

学びの内容・方法

- ・ 介護福祉類型.....介護についての専門的な知識や技術、相手を想う心を身につけ、高校卒業とともに「介護福祉士」の国家試験合格をめざす。
- ・ 生涯福祉類型.....人との出会いを大切に、相手のことを考えることのできる力を育成し、様々な体験をとおして「福祉の心」を学び、福祉分野で活躍できる人材の育成をめざす。

- ・ 生活福祉類型.....乳幼児の保育、高齢者介護など、社会福祉に関する専門的な知識や技術を育成するとともに、コミュニケーション等の実践力を備えた、福祉や保育分野で活躍できるスペシャリストの育成をめざす。

生徒の状況

介護福祉類型では、介護福祉士をめざす生徒が確かな知識と介護技術を習得できるよう、介護福祉士国家試験受験資格に必要な専門教科 53 単位を設置しています。また、明野高校では、同資格の合格率が 10 年連続で 100%となりました。

その他の類型においては、保育も含め幅広く福祉を学びコミュニケーション力等を身につけ、保育や福祉分野への進学・就職をめざしています。

本県の特徴

北勢・中勢(伊賀)・南勢地区の各地域に 1 校ずつ設置し、各地域のニーズに対応しています。福祉実践力の育成のため、福祉施設への実習や交流を重視した取組を実施しています。

課題

福祉科の設置当初から介護福祉士国家試験合格率が 100%に届かない学校において、個々の生徒に応じた指導が必要です。超高齢社会がますます進行し、2025 年には高齢化率が 30%に達すると予想されている社会において、福祉人材の十分な育成は喫緊の課題であり、高校においても、介護における確かな知識と技術を備え、福祉分野で活躍できる人材を育成する必要があります。

< 専門学科全体の課題認識 >

職業系専門学科では、これまで、技術や課題解決力能力の習得をとおして地域産業の持続的な発展を支える職業人の育成に資するよう、インターンシップやデュアルシステム等企業との連携・協働や、スーパープロフェッショナルハイスクール(SPH)における研究、学科に関連する資格取得等、産業に関する理解を深めながら職業観・勤労観を育んできました。

また、地域の要請等に応じて、各学科における学びや名称を改編してきており[参考2]、保育士の受験資格が短期大学卒業程度に引き上げられたこと及び介護のニーズの高まりによる保育課から福祉課への改編(H6)や、情報社会に対応した教育の必要性から「情報に関する学科」が制度化されたことによるシステムメディア科の設置(H16)などがあります。

今後も、産業界が求める資質や能力、職業教育へのニーズを適切に把握し、教育内容に反映していくとともに、産業構造や就業構造の急激な変化に対応する力を育んでいく必要があります。

なお、人口減少が進行する中で、職業系専門学科の小学科(工業学科における機械科等)においては、現在そのほとんどが単一学級となっています。このことをふまえながら今後の中学校卒業生数の推移を勘案すると、複数の小学科の再編や異なる学科間の統合も視野に入れたうえで、新たな専門学科のあり方を検討する必要があると考えられます。

(ウ) 総合学科〔参考4〕

役割

総合学科は、普通教育と専門教育を選択履修し、総合的に学ぶことができる学科として、平成6年度から導入されました。生徒が将来の職業選択を視野に入れて学習できるようにすることを重視しており、在学中に自分の進路への自覚が深まるような選択科目を開設するとともに、就職希望者・進学希望者の双方を視野に入れた進路指導等のガイダンス機能の充実を図っています。また、生徒の個性を生かした主体的な学習をとおして、学ぶことの楽しさや成就感を体験させる学習ができるよう幅広く選択科目を開設し、多様な能力・適性等に対応した柔軟な教育をめざしています。

学びの内容・方法

総合学科では、全ての生徒が原則として入学年次に履修する「産業社会と人間」において、地域や産業界の人々等多様な人々と関わる中で、自分の将来の生き方や進路について考察し、自らの興味・関心によって職業との関連を深めることができ、実際に企業等での職業体験を行うインターンシップも多くの学校で取り入れられています。

科目選択については、相互に関連の深い科目をまとめたグループを「系列」として、生徒が自らの興味・関心や能力・適性、卒業後の進路希望に合わせて科目を選択する目安としています。

生徒の状況

総合学科には、多様な興味・関心を持つ生徒が入学するため、卒業後の進路も多岐にわたっています。そのような生徒たちが自分の個性を伸ばしたり、進路希望を実現したりすることができるよう、国語や数学等のいわゆる普通教科・科目をはじめ、情報や福祉などの多様な専門教科・科目が用意されており、そうした多種多様な教科・科目の中から生徒一人ひとりが学習内容を選択し、自分の時間割をつくり、自分の得意な分野を伸ばしたりすることにつながっています。

こうした主体的な学びの中で研究成果を発表する機会が設けられており、自分の考えを自分の言葉でわかりやすく他の人に伝えるという活動をとおして、コミュニケーション能力を身につける機会となっています。

また、将来、社会において求められる人材となるために、自分が地域に対して何ができるかを考えながら主体的に学習し地域に貢献するなどの活動も積極的に行われています。

本県の特徴

総合学科における教育の振興を図るため、総合学科教育研究協議会を設置し、キャリア教育の充実 自己実現に向けての進路保障 教育内容の充実 基礎学力の定着を共通課題として研究協議を行っています。

現在、本県の総合学科の系列数は以下のとおりです。

いなべ総合学園（8系列） みえ夢学園（9系列） 飯南（4系列） 昴学園（5系列）
鳥羽（4系列） あげぼの学園（4系列） 名張（6系列 R3から4系列） 木本（2系列）

課題

多様な開設科目という総合学科の特徴を生かすためには、科目選択が生徒の主体性に基づ

いて行われる必要があるとともに、授業を通じて生徒の目的意識や将来への自覚を高めることが求められます。一方で、科目選択の自由度が高いことにより、系統的な学力や専門性が十分身につかない場合がある、との指摘もあります。

本県の全日制総合学科高校（7校）のうち、いなべ総合高校（R3年度より7学級）と名張高校（R3年度より5学級）以外は1学年2学級以下の小規模校となっており、系列の数や学習内容を限定せざるを得ない状況にあります。そのような中で、今後、科目選択の多様性という総合学科の魅力をどのように維持し発信していくのが課題です。

（2）定時制

役割

中学校を卒業して勤務に従事するなど様々な理由で全日制の高校に進めない青少年に対して高校教育を受ける機会を与える目的で設置されました。近年は、全日制課程からの転・編入学者や、過去に高校教育を受けることができなかった者等、多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えています。

学びの内容・方法

4年の修業で卒業できるように教育課程が編成されていますが、通信制課程との連携等により3年で卒業することも可能です。また、多様な学習歴を持つ生徒が増えていることから、義務教育段階の内容の確実な定着を図ることを目的とした科目や、日本語指導に係る科目を開講している学校もあります。

生徒の状況

働きながら学ぶ生徒、中学校で不登校の経験のある生徒、日本語指導が必要な外国籍生徒、発達障がい等により特別な支援を必要とする生徒等多様な背景を持つ生徒が在籍しています。

なお、県立高等学校の定時制課程在籍者数は、1,625人です（令和2年5月1日現在）。

本県の特徴

定時制課程設置11校のうち、3校（北星、みえ夢、伊勢まなび）が単独校、8校（桑名、四日市工業、飯野、松阪工業、上野、名張、尾鷲、木本）が全日制との併置校となっています。単独校3校は、いずれも多部制（生徒は、午前部、午後部、夜間部のいずれかに在籍）となっています。

本県では、毎年10月に、学校生活をとおして感じ学んだ体験を各校の代表者が発表する生活体験発表大会を、11月には、各校の生徒が集まる交流スポーツ大会をそれぞれ開催しています。また、生徒の多様なニーズに対応するため、日本語習得の支援を行う外国人生徒支援専門員のほか、就職アドバイザー、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、発達障がい支援員を必要に応じて派遣しています。

課題

多様な生徒が在籍していることから、生徒の実態や学習ニーズに応じた教育活動を一層進める必要があります。

(3) 通信制

役割

全日制・定時制の高校に通学することができない青少年に対して、通信の方法により高校教育を受ける機会を与える目的で設置されました。近年は、全日制課程からの転・編入学者、中学校までの不登校経験者、過去に高校教育を受けることができなかった者等、多様な入学動機や学習歴を持つ生徒が増えています。

学びの内容・方法

添削指導、面接指導が教育の基幹的な部分であり、全日制・定時制課程における授業に相当するものです。修業年限は3年以上となっています。

生徒の状況

入学する生徒の約半数が転・編入学者であり、不登校経験者や、特別な支援を要する生徒、経済的な困難を抱える生徒等、全日制・定時制課程で学ぶことが難しい、多様な課題を抱えた生徒が多く在籍しています。また、進路希望も多様であり、生徒間の学習意欲や学力の差が大きくあります。

なお、県立高等学校の通信制課程在籍者数は、2,177人です（令和2年5月1日現在）。

本県の特徴

本県では、毎年10月に、学校生活をとおして感じ学んだ体験を各校の代表者が発表する生活体験発表大会を、11月には、各校の生徒が集まる交流スポーツ大会を開催しています。

課題

多様な生徒が在籍していることから、生徒の実態や学習ニーズに応じた教育活動を一層進める必要があります。

2. 国の動向

(1) 普通科改革

「普通科教育を主とする学科」の種類について、従来の「普通科」だけでなく、以下のような特色・魅力ある学科の設置を可能とすることとされました。

○学際的な学びに重点的に取り組む学科

SDGsの実現やSociety5.0の到来に伴って生じる諸課題に着目し、国際社会及び日本社会における課題の発見・解決に資する資質・能力を育成。国内外の高等教育機関や国際機関、国の機関等との連携・協働により、大学教育の先取り履修や高大連携講座の仕組みの構築などを実施。

○地域社会に関する学びに重点的に取り組む学科

地元市町村を中心とする地域社会の有する課題・魅力に着目し、地域社会の持続的な発展や価値の創出に資する資質・能力を育成。地元の市町村、高等教育機関、企業・経済団体等との連携・協働により、フィールドワークや事例研究、社会人講座などを実施。

○その他特色・魅力ある学びに重点的に取り組む学科

その他普通教育として求められる教育内容であって当該高等学校のスクール・ミッションに基づく特色・魅力ある学びに重点的に取り組む。

新たな学科では、学校設定教科・科目を活用して各学科において育成を目指す資質・能力に対応する学びに取り組み、特色・魅力ある教育課程を編成・実施します。そのうえで、総合的な探究の時間において、当該学科において着目する社会的課題等をふまえた目標を設定し、その内容として目標を達成するにふさわしい探究課題を設定します。

また、学校設定教科・科目、総合的な探究の時間や各教科・科目を相互に関連付けて取り組むことが適当であり、学校設定教科・科目や総合的な探究の時間を各年次にわたって体系的に開設することにより、社会との関わりの中で生徒自身が自己の在り方生き方を考えるとともに、各教科・科目等と総合的な探究の時間を往還する学習を実現します。〔参考11〕

(2) 専門学科改革

産業界を核として地域の産学官が一体となって、将来の地域産業界・高等学校段階での人材育成の在り方を検討し、それに基づく教育課程を開発・実践します。

地元企業の施設の活用等の工夫による最先端の施設・設備に触れる機会を創出します。

(3) 新しい時代に求められる総合学科の在り方

普通科及び専門学科の多様化が進展する中、総合学科としての特色の発揮という点で課題があることが明らかになっています。そのため、生徒が真に必要な力を身につけることができるよう、自らの教育理念を明らかにし、それに基づいた教育課程を編成し実施することをめざしていき、としています。また、そのために、ICT等も活用して他校の科目を履修して単位を相互認定する仕組みを活用したり、家庭及び地域の人々や産業界の積極的な協力を得たりしながら、総合学科としての特色を発揮できるようにする、としています。

(4) 定時制・通信制過程等における多様な学習ニーズへの対応

制度創設時と異なり勤労青年に限らず多様な生徒が在籍している現状を踏まえ、多様な生徒のニーズにきめ細かく対応するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門スタッフの充実、関係機関との連携促進、ICTの効果的な活用、少年院在院者への高等学校教育機会の提供等を推進する、としています。

3. 特色ある学科・課程の事例

三重県立伊賀白鳳高等学校

伊賀地域の3つの専門高校(上野工業高校・上野農業高校・上野商業高校)が集結し、平成21年4月に開校した本県初の総合専門高校。工業科・農業科・商業科・福祉科の4分野の13コースを設置。生徒の進路希望の実現にきめ細かく対応できるよう、入学後に希望する学科・コースを選択できるくくり募集を実施。

兵庫県立村岡高等学校 普通科「地域アウトドアスポーツ類型(全国募集)」

地域の自然、文化、アウトドアスポーツ等に興味があり、それらを活用した地域活性化策の探究学習に関心のある生徒を対象に「地域アウトドアスポーツ類型」を設置し、その中に「地域創造系」と「アウトドアスポーツ系」の2つの系を設けている。「地域創造系」では、地域

全体を教育資源として活用し、自然、文化、風土に関わる知識の習得と、それらを活かした地域活性化策の探究を行う。「アウトドアスポーツ系」では、地域の特性を活かしたアウトドアスポーツ等に関わる技能・資格の習得と、スポーツを活かした地域活性化策の探究を行う。

島根県立隠岐島前高等学校 普通科

高校や町村、県が協働し、地域資源を活かした教育カリキュラムの導入や、高校生と地域の連携型公立塾「隠岐国学習センター」の開設、全国から多彩な意欲・能力ある生徒を募集する「島留学」など独自の施策を実施。100台のiPadを整備し、探究学習や遠隔授業に活用。高校への入学希望生徒数も増え続け、平成23年には過疎地の学校としては異例の学級増を実現。

北海道静内農業高校 生産科「馬コース」

全国の高校で唯一、競走馬の生産や育成が学べる馬コースを設け、種付けから競り市への上場までを体系的に学習する。「馬学」で飼育する馬がストレスなく離乳するためにどこの馬房で育てるべきかを検討したり、「課題研究」でGPSを活用して運動量を測定しより強い馬を育てる方法をさぐったりするなど、実習と座学が密接につながっている。特色ある授業を支えるため、種付けの際は日本軽種馬協会の種馬場が協力し、日本中央競馬会や町内の育成牧場も講師を派遣するなどしている。

東京都立葛西工業高校 デュアルシステム科

卒業後に社会へ出ることを見越して長期間の職業体験を実施。企業実習に1年生は4日間を2回、2～3年生は1カ月間を2回実施しており、提携企業は130社以上から生徒は希望に応じて選べる。

千葉県立柏の葉高等学校 情報理数科

情報の活用力や分析力、課題解決力を育成するため情報理数科を設置。千葉大学や千葉工業大学、東京情報大学など県内外の大学との連携により、オンラインを使った遠隔講義の実施や大学教員の指導によるロボット製作など最新の知識や技術を習得するとともに、生徒の進路意識を高め、専門領域への関心を喚起している。また、小学校の夏休み算数教室へ参加するなどボランティア活動も実施。

長野県白馬高等学校 国際観光科「国際コース、観光コース」

体験学習「高校生ホテル」では、ホテルの企画、運営に必要な知識・技術を事前に学習し、白馬村内の宿泊施設を借りて、高校生自身が1泊限定のホテルを実際に運営。

学校独自の科目として、観光、環境や地域の方を講師とした「観光英語」等を設定し、白馬山脈の豊かな自然環境等を活用した教育活動を展開。また、ブリティッシュスクールイン東京と連携協定を結び、定期的な交流を実施。

幅広い生徒への対応として、土日と放課後の基礎学力養成補修や「公営塾」による自ら考えて課題解決する力を養うプログラム学習等に取り組んでいる。

白馬・小谷の両村は、教育寮の整備や「国際観光科」設置等を長野県教育委員会に地域案として提出し、手厚い支援を行っている。

岐阜県立岐阜商業高校 会計システム科

株式会社GIFUSHOを設立。グッズ販売や地域企業からの広告デザインの受注など、学校を一つの商社と位置づけ実際の企業経営を実践。ビジネスプランコンテストも開催し、市場のニ-

ズに即したアイデアを創造する力の習得を目指している。また、中央大学商学部と高大接続会計教育プログラムを締結し、大学からビジネスの各分野に対応した講師を招聘し授業を実施。

京都府立京都すばる高等学校 起業創造学科

地域コーディネーターを配置し、企業や地域とマッチングを行っている。起業家による講演会を開催するほか、生徒が企画開発した商品を空き店舗を活用して販売するなど地域課題解決型の授業を実施。また、企業や大学、京都府警と連携した高校生版卒業論文にも取り組んでいる。その他、ビジネスマナーを高校入試で役立ててもらうための講演会を中学校で実施。

大分県立日田三隈高等学校 総合学科

全 125 科目を開設し、30 歳までを見通したキャリア教育を実践。1 年次に、将来なりたい職業に就いている人や生き方・考え方に関心のある人にインタビューを行う「この人に学ぶ」では、生徒自身が対象者を選び、依頼文作成、アポイントメント、報告書作成から発表までを実施。また、ライフプランを作成し、毎年度見直しを行う。2 年次に、事業所選定、体験内容の交渉、結果発表まで生徒自身で行う「セルフプロデュース形式」のインターンシップを実施。3 年次に、約 10 名規模のゼミ形式で各自が興味・関心・進路に応じたテーマを設定し、1 年間かけて、調査・研究、実験、作品制作などを進める。また、卒業生と連携した教育活動として、30 歳となった卒業生に現在の状況についてのレポートと、高校時代の学びと現在の関連についてのアンケートの提出を依頼して「30 歳のレポート」発表会を実施したり、授業に講師として招くなど、総合学科で学ぶ意義や進路選択について学ぶ仕組みを設けている。

神奈川県立厚木清南高等学校

全日制・定時制・通信制の 3 課程を有する高校であり、異なる課程間の授業を履修することが出来る「フレキシブルスクール」。思春期の発達障害を診察している精神科医による生徒・保護者向けの相談会を定期的実施し、生徒に医療等外部機関につなげる機会を創出するとともに、教職員と医師とが日常的に相談できる「顔の見える連携」の関係構築を実現。また、社会に必要な基礎知識を身に付けることを目的として、1 年次における国語・数学・英語の基礎的な内容と、進路に関わる内容を横断的に学ぶ学校設定科目「キャリアデザイン」を必修化。また、コミュニケーションや独力での就職支援に課題を抱える生徒に対して、教職員の付き添いや外部機関と連携したインターンシップなどの「就業支援プラス事業」を実施。

神奈川県立川崎高等学校

全日制課程と定時制課程が一体化した「単位制普通科高校フレキシブルスクール」。定時制の生徒が全日制の午前授業を、逆に全日制の生徒が定時制の夜間授業を受けることができ、入学式や体育祭も合同で実施。生徒は自分で自分の時間割を作り、学ぶ時間、場所、対象、集団がすべてフレキシブルとなっている。

論点

本委員会におけるこれまでの議論や本県の学科・課程の現状と課題をふまえ、また、全国の特徴ある学科・課程の事例を参考として、これからの時代に必要とされる人材を育成するとともに、多様な生徒の可能性及び能力を最大限に伸ばしていくために、本県の学科・課程における学びの内容や方法をどうしていくべきか。